

図画工作 I - I における「自画像づくり」  
及び発達段階に応じた「自画像」指導（実践報告）

佐々木 啓祐\*

“Self-Portrait Creation” in Art and Craft I-I  
and the Developmentally Appropriate “Self-Portrait” Instruction  
(A Practical Report)

SASAKI Keisuke

要約

本稿は、小学校の教員免許取得のための必修科目「図画工作 I - I」での「自画像づくり」の実践や、県教育委員会から委嘱された「アートの先生」として県内の幼稚園等を訪れて実践した「自画像を描く」造形活動、さらに中学校美術科で実践した「自画像を描く」授業の実践報告を行うとともに、特に小学校高学年位から敬遠される自画像づくりについて、発達段階に応じた自画像指導の在り方について論ずる。

キーワード：敬遠される自画像づくり 発達段階 指導の在り方

Abstract

This paper reports on the practice of making a self-portraits in Art and Craft I-I, a compulsory subject for obtaining an elementary school teaching license. It reports on the author's experiences of the creative activity of producing self-portraits while visiting kindergartens and other schools in Kagawa prefecture as an art teacher commissioned by the Prefectural Board of Education, and the practice of making self-portraits in classes in the art department of a junior high school. It also discusses how to teach self-portraits according to developmental stages, with students in the upper grades of elementary school being particularly reticent to create self-portraits.

Keywords: reticence in making self-portraits, developmental stages, how to provide instruction

1 はじめに

中学校美術教師をしていた筆者が、定年退職後に高松市総合教育センターの研修指導員として高松市立紫雲中学校へ保健体育科の橋谷先生の授業を参観に訪れたときのことである。ホームルームに入った途端、38年の教職経験でも初めて出会ったと思える素晴らしい教室掲示に圧倒された。

---

受理年月日：2025年11月21日 \*高松大学発達科学部准教授



図1 教室背面掲示（紫雲中学校 橋谷先生）2017年

教室の背面の掲示物には、生徒たち一人一人の学校生活等での目標を書いた掲示物や校内クラスマッチでの表彰状などが掲示されている。掲示物によってクラスの一員であることの存在を確かめるものである。校内クラスマッチの表彰状（※2）は、色画用紙を台紙として貼り重ね、装飾用のマスキングテープで縁取りし、さら右肩にお手製のロゼッタを付けるといった凝ったものである。そして、背面掲示の中で一際目を引くのは、生徒たちの自画像（※1）である。といっても描かれたものでなく、極めてシンプルな形に単純化した自分の顔が、画用紙を切り貼りして作られている。担任の先生は、保健体育科なので美術の授業でつくられたものではない。



図2 自画像を描いた時期

左図は、本年度前期の図画工作 I-I の受講者 14 名に授業後にとったアンケート結果である。

これまで園や学校で約 8 割の学生が自画像を描いた経験を持っている。

小学校では半数以上、中学校や幼児期では 3 割以上の学生が「自画像を描いた」と記憶している。

ただ、中学校では「自画像」が美術科教科書の題材として取り扱われているが、小学校の図画工作科の教科書では取り扱われていないことから、上記の橋谷先生のクラスのように、学級掲示物作成の一環として学級の時間を利用するなどして「自画像」が制作されたのかもしれない。



浅野小3年2018年



鬼無小1年2018年

図3 小学校の教師掲示 自画像

## 2 自画像について

### (1) 中学校美術科における自画像制作の目標

平成7年度から使用する中学校美術科の教科書では、どの教科書発行者も3年あるいは2・3年下の教科書で4～5ページを割いて自画像を扱っている。

表1 「自画像を描く」目標・ねらい 中学校美術科教科書から

教科書発行者 題材名	教科書に掲載されている学習の目標
開隆堂 自分と向き合う ～自画像を描く～ (4ページ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 色彩や材料などの性質を理解し、自分らしさを表す方法を工夫する。</li> <li>○ 自分自身と向き合うことから主題を考えて構想を練るとともに、表された思いなどのよさや美しさを味わう。</li> <li>○ 自分を見つめ、自分らしさを表現することに感心をもち、主体的に学習に取り組む。</li> </ul>
光村図書 今の自分、 これからの自分 (4ページ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表したい自分を形や色彩、イメージなどから捉え、意図に応じて工夫して表す。</li> <li>○ 自分を見つめて考えたことをもとに主題を生み出し、心豊かな表現の構想を練る。</li> <li>○ 自分の見方や感じ方を深めながら、自分を表したり、作品を鑑賞したりする活動に主体的に取り組む。</li> </ul>
日本文教出版社 わたし自身を 見つめて (5ページ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 構図や顔の角度、表情やしぐさ、背景、色彩などに着目し、印象などをとらえ、絵の具や用具の特性を生かして表す。</li> <li>○ 心の内面や自分自身のイメージをもとに、構図や表情などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。</li> <li>○ 心の中を見つめ、自分らしさを自画像で表すことに関心を持ち、意欲的に取り組む。</li> </ul>

### (2) 中学校美術科教科書に掲載されている自画像(生徒作品)

[日本文教出版社]



「自画像」(アクリル・紙)

[光村図書]



「悩み迷う自分」  
(紙・ペン・アクリル、背景はマーブリング)

[開隆堂]



「私を包む音楽」  
(鉛筆、水彩、紙粘土、スチレンボードなど)

図4 中学校の美術科教科書から

中学校美術科の教科書には、自画像を描くねらいや発想法などとともに、生徒や作家の作品が掲載している。各発行者とも、写実的な作品に加えて、想像画や抽象絵画、また半立体・立体的な作品など、様々な表現技法や材料が工夫された作品も掲載している。

### 3 実践報告「自画像をつくる」(「図画工作Ⅰ—Ⅰ」2年時履修)について

#### (1) 描写能力と発達段階

子どもたちは、年齢が進むにしたがって描写能力の差が顕著になってくる。幼児期から小学校低位学年の頃までの描画は、主観的・感覚的で生き生きとし個性的である。しかも心の動きも活発に感じられる表現である。しかし、小学校高学年から中学校の時期ともなると、ものを見たとおりに客観的に描写する意欲が急速に高まるが、反面、物を再現模写しようとするが、描写技術が伴わず、苦手意識をもち、絵を描く意欲が消えてしまい、自分自身も周囲の者も絵の上手な子と下手な子を振り分けててしまう。それまでの生き生きとした表現が失われ、純粋な絵としての面白みが無くなっていく。

そのため、絵画指導においては自画像に限らず、風景画であれ、静物画であれ、すべての児童生徒に対して一律にこうした写実的な表現を強いることは、とりわけ苦手意識をもっている児童生徒にとっては、苦痛以外何物でもない。

#### (2) 「描く自画像」から「つくる自画像」へ

私が大学で行う造形の授業や図画工作の授業は、将来、保育所・幼稚園・こども園・小学校で取り扱ってほしい題材を経験することを主なねらいとしている。

2年生での履修科目である「図画工作Ⅰ—Ⅰ」は、小学校教員免許取得のための必修授業であり、学生たちが小学校教員となったときに、児童たちに「自画像」を制作させ、教室に全員の作品を掲示してほしいと願い、毎年題材として取り扱っている。



2025年 S. M.



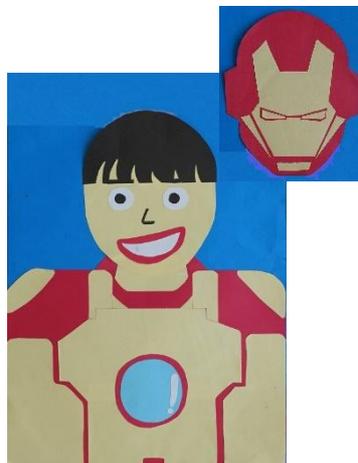
2025年 H. K.



2025年 H. S.



2024年 A. H.



2024年 K. N.



2024年 A. K.



図5 「図画工作Ⅰ－Ⅰ」(2年) 授業作品

(3) 「図画工作Ⅰ－Ⅰ」を受講した学生のアンケート結果から

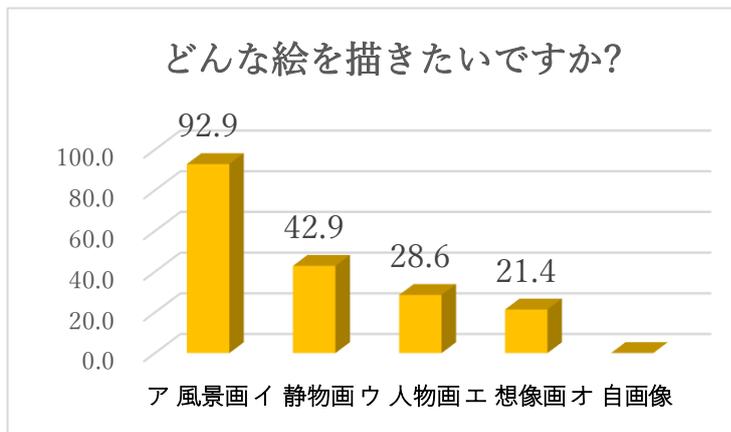


図6 描いてみたい絵

左図は、本年度前期の「図画工作Ⅰ－Ⅰ」の受講者14名に対する「絵を描くなら、どんな絵を描きたいですか?」の問いに対する回答(複数回答可)である。

自画像と回答した学生は1人もいなかった。

さらに「自画像」についてのアンケート結果を挙げる。

表2 「自画像が中高生に敬遠される理由」

- 容姿が気になり始めるときに、自分の顔を描くという課題はちょっと酷である。作品を誰にも見られないのであればまだしも、皆に見られるのはちょっとキツイ!
- 目鼻が大きいとか小さいとか、鏡を見て写実的に描くとなれば、授業はさらに憂鬱となる。思春期に自分を見つめることは大切かも知れないが、絵に描かなくても、文章で表現してもいい。写実的に描くことにどういう意味があるのか。
- 顔そのものが絵を描く対象として難しい。

表3 「色画用紙を切り貼りしてつくる自画像のよさ」

- 色画用紙を切ったり、ちぎったりしてつくる「自画像」は、単純化したりデフォルメしたりすることになるので、表現への抵抗感が大きく軽減され、絵の苦手な人たちには最適である。
- 目や鼻、口などの顔の部分を切ってからバランス等を考えて顔を貼っていく。同じように部品（パーツ）をつくってから動きやバランス等を考えながら、一部は、はみ出させるなど、全体構成をしていく作業によって造形能力が養われていくと思う。また、そうした作業は、「描く作業」と異なり最初の下描きによって決定的な線を引かなくてよく、やり直しができるため、安心して作業ができる。
- 色画用紙を重ねたり折ったり、曲面をつけたり、別途作成した小物を貼ったりして立体的な作品づくりが楽しめる。

表4 「教員となって自画像を描かせたりつくらせたりするときの留意点」

- 色画用紙を切り貼りしてつくる場合は、ペーパークラフトの基本的な技術や道具の使い方などを紹介してあげたい。絵の具やクレパスで描く場合も、特に絵が苦手な子どものために、しっかりと描き方指導をしないとイケない。
- 苦手な子どもも楽しんでつくることができるよう、参考作品をいっぱい見せて、「こんなふうにつくりたい」と思ってもらうとともに、つくり方のコツやポイントを丁寧に教えてあげたい。

#### (4) 小学校の教員研修会での実践指導

小学校において、「描く自画像」ではなく「つくる自画像」を実践してほしいという思いから、退職後3年間務めた高松市総合教育センターにおいて、若手教員を対象とした土曜日開催の研修会である「高松塾」で、自主的に参加いただいた先生方に色画用紙を切ったり、ちぎったり、貼ったりしてつくる自画像づくりを行った。

#### 切って、ちぎって、貼って自画像づくり



図7 高松塾に参加した教員の作品 2018.6.16

## (5) 課題

本科目の授業では、学生たちに、『皆が小学校の先生になったら、子どもたちに「自画像をつくって教室に貼りましょう。」と言って、絵の具やクレパスを使って描くのではなく、色画用紙を切って貼ってつくる自画像をつくらせた。

学生たちの完成後の感想から、本題材が「描くことに苦手意識を持ちはじめたり、自分の容姿が気になり始めた高学年の子どもたちにとって、単純化やデフォルメされた表現は抵抗感なく取り組める格好の題材である。」ことを皆が実感している。

課題としては、小学生を意識して、自分の好きなことや好きなものをテーマとしたが、次年度からは、先に挙げた中学校教科書を参考に、もう少し複雑な感情を材料や技法を工夫させて表現させてみようと考えている。

## 4 実践報告「自画像を描く」(幼児)について

### (1) 幼児期の自画像

「酒井式エチュード&シナリオ厳選 23」(明治図書)では、描く順番を指定して描かせた「3歳児が描いた顔」が紹介されている。

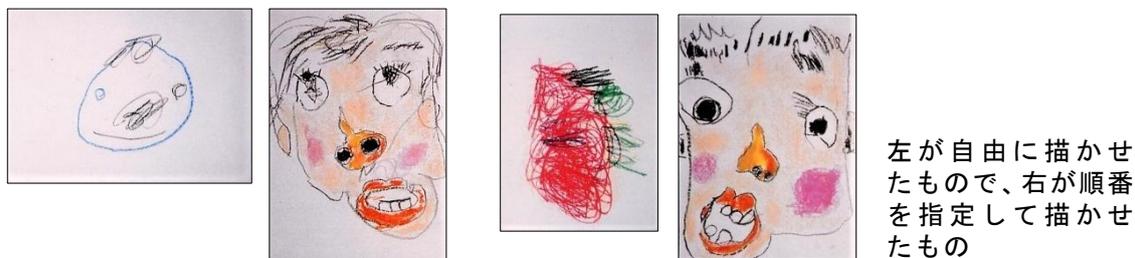


図8 3歳児が描いた顔

かつて私は、香川県教育委員会から「アートの先生」を委嘱され、県内の保育所や幼稚園・こども園で造形活動を行っていたことがある。その頃に、子どもたちに自分の顔を描かせてみたいと思い、その方法を考えた。小学校で図画工作科の専科教員を行っていた経験から、「自由に描いてごらん」では、小学生であっても形にならないことが分かっており、幼児であれば、なおさらであと容易に想像することができた。そこで、みんながうまく描ける方法はないかと思い、ネットや図書で調べ、酒井式の描画指導法など、描き順を示して描かせる方法で描かせることにした。



画用紙に指や手のひらを使って自分の顔を順番に描いていく。  
はじめに画用紙いっぱい顔の肌の色を塗り、まん中に鼻を描く。  
次に、目の白いところを塗って、その上から黒く目の玉を塗る。  
次に口、耳と順番に描いていき、最後は髪の毛。

「遊びと造形」学研より

図9 5歳児の自画像(松山保育園)

私の幼児への実践は、指や手のひらを使って順番に描いていくもので、一つ一つの工程ができたかどうかを確認しながら、皆で一緒に描き進めていく。

だいたいの手順は以下のとおりである。

表5 「自画像」指導の手順（冒頭部分のみ）

<p>「最初に、顔を塗ります。バレットの肌色を手のひらにとって、画用紙いっぱい大きく顔の形を塗ってください。」</p> <p>（大きく塗れていない子どもに個別指導し、全員ができたかどうか確認する）</p> <p>「次に、人さし指と中指で肌色と黄土色を少し混ぜて、顔の真ん中に鼻を塗りましょう。「鼻が塗れたら、薬指に少しこげ茶色を混ぜた色をつけて、鼻の穴を塗りましょう。」</p> <p>（皆ができたかどうか確認し、次の作業のために流しで手を洗ってこさせる）</p>
--

図書やネットで掲載されている実践は、それぞれに少し描き順が異なっていたが、いろいろと実践してみると、最初に画面中央に大きく顔の色を塗ったら、次は、髪を塗っても、鼻を塗っても、目を塗っても問題はない。大切なことは、隣近所の友達の作業も確認しながら、皆で順番に描き進めることが上手く描ける秘訣のようである。



図10 4・5歳児の自画像（さぬき北幼稚園）



図11 4歳児の自画像（志度幼稚園）

「お手本を真似したり、指示されたとおりの描き方で描いた絵は、創造的・個性的な表現とは言えない。」とする考え方がある。私は、幼児の場合は、お手本を真似た絵であってもお手本どおりに描けないため、それなりに個性的で創造的な生き生きとした表現となる。さらに言えば、それらしく描くことができるため、幼児は「上手く描けた」と満足感が得られ、絵を描くことが好きになる。このことが何より大事なことである。

## 5 実践報告「自画像を描く」(中学生)について

### (1) 指導のねらい

私の香川大学教育学部附属中学校に勤めていた2年間の実践を紹介したい。

指導の1番の工夫としては、表現材料や技法を選べるよう、できるだけ多くの作家の作品を紹介し、「こんな描き方をしたい」「これなら自分も描けそうだ」と思えるような作品を見つけさせることである。

また、生徒たちが多様な表現ができるよう、一つの描き方、とりわけ写実的表現を強要しないようにした。そのため、作品鑑賞においては、写実的表現はあくまでも表現の一つであることを強調し、様々な年代の画家や異なる分野の画家の作品を紹介した。

### [生徒作品]

#### A 写実型 (淡彩画)

絵の具を淡く定着させ、ティッシュペーパーで拭き取ったりしながら、微妙な調子を表現している。また、面相筆で髪の毛を描き込んだり、輪郭線を描き入れたりしている。二人とも、極めて写実力の高い生徒である。



① S. S.

② Y. K.

#### B 写実型 (ペン画)

③は通常の線描  
(ボールペン)

④は切れ切れの  
短い線で

⑤は点描で



③ M. Y.



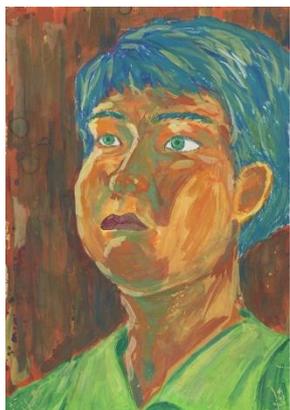
④ A. M.



⑤ Y. Y.

#### C 写実型 (フォービズム)

- ・厚塗りで重色の効果を生かして
- ・大胆なタッチで筆跡を残して
- ・原色や対照色を使って
- ・感情表現のための色彩で描く



⑥ M. S.



⑦ K. M.



⑧ M. T.

D 半抽象型 (キュービズム)

- ⑨⑩はクレパス  
⑩は白ボール紙  
にアクリルで  
描いた



⑨ E. H.



⑩ Y. A.



⑪ Y. A.

E 超現実型 (シュール)

- ⑫はパステル  
⑬はカラーペン  
マーカー  
水彩絵の具  
⑭は墨汁  
ハケ、ブラシ



⑫ S. K.



⑬ K. O.

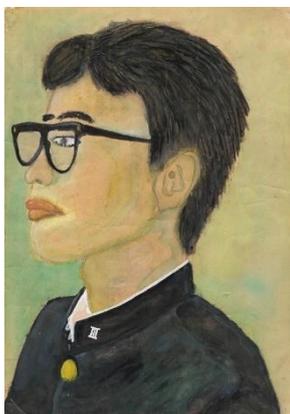


⑭ S. I.

F その他

- ・画面への取り  
入れ方
- ・ポーズ

- ⑮⑯⑰ともに、  
色画用紙に水彩  
絵の具、色鉛筆



⑮ A. H.



⑯ R. H.



⑰ Y. M.

図 12 中学生の自画像 (香川大学附属高松中学校 3 年生 1992-93)

(2) 指導上の留意点

- 生徒たちに、白い画用紙に彩色する以外に様々な表現方法や表現に応じた材料や技法があることを知らせ、それらを選択し、さらに自己の表現を工夫させた。

授業で用意する材料は次のとおりである。

[用紙] 白画用紙、色画用紙、和紙、マーメイド紙、コットン紙、黄ボール紙、白ボール紙、段ボール紙

[描画材料] 水彩絵の具、アクリル絵の具、クレパス、ポスカ、マーカー、蝋マジック、木工用ボンド、墨汁



開隆堂 5・6上  
「あの時あの場所わたしの思い」から



「ピアノがもっとうまくなりたい」

開隆堂 5・6下  
「わたしの大切な風景」から



「3階から見下ろした階だん」



図 16 現行の開隆堂の小学校図画工作科教科書から

開隆堂、日文の2発行者については、ともに2・30年前の教科書をさかのぼって見ても、2ページ以上を割いて自分の顔を描くという題材、いわゆる「自画像」は取り扱っていないが、絵の中に「わたし」が描かれている類似の題材や、「自画像」の鑑賞、一部のスペースに掲載されている「自画像」作品がいくつか見受けられた。

平成12年度用 日文5  
「わたしの好きなとき」から

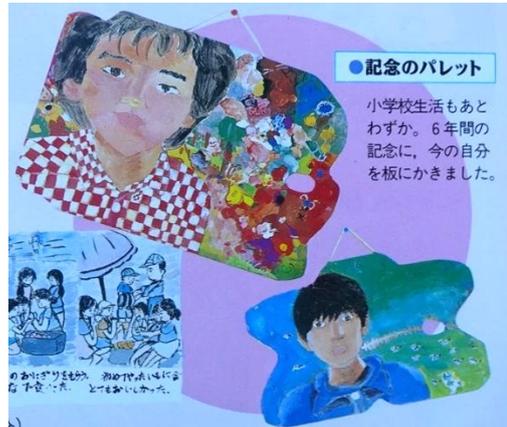


「むちゅうになって、ボールをけているときが好き」

平成4年度用 開隆堂6  
「わすれたくない生活のひとこま」から



「ミシン」



「卒業記念のパレット」

平成17年度用 日文5・6下「思いを広げて」全3ページ



平成8年度用 日文6  
「これがわたし これもわたし」1ページ

もし、変身することができたら、どんなすがたの自分を想おうしますか。  
画用紙とビニールシートなどに絵をかいて重ねると、ほんとうの自分と、変身したもう一人の自分を表すことができる。



図 17 過去の自画像題材・類似題材

東京書籍（東書）は、昭和 36 年度版教科書から平成 17 年度版教科書まで、改訂の度に「自画像」を 2 ページ見開きで取り扱っている。

昭和 61 年度用 東書「心をこめて」2 ページ

平成 8 年度用 東書「自分を見つめて」2 ページ



図 18 東京書籍の「自画像」題材

また、光村図書（光村）は、本編では「自画像」を取り扱ってはいないものの、6冊の裏表紙はすべて子どもたちの「自画像」を掲載していた。



図 19 昭和 61 年度用  
光村図書  
図画工作科教科書  
(6 冊) の裏表紙

### (3) 児童の個性を生かした内容の取扱いについて

これまで、述べてきた小・中学校での「自画像」指導については、私の実践であれ、教科書に掲載されている実践であれ、自画像の描き方について、材料や用具、描き方については多種多様である。このことについて、現行学習指導要領及び解説では、次のように述べられている。

表 6 小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 図画工作編  
2 内容の取扱いと指導上の配慮事項 から

<p>児童の個性を生かした内容の取扱い</p> <p>2 第 2 の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(1) 児童が個性を生かして活動することができるようにするため、学習活動や表現方法などに幅をもたせるようにすること。</p> </div> <p>この事項は、児童一人一人が自分の個性を生かしながら資質・能力を十分に働かせるために、多様な学習ができるようにすることを示している。</p> <p>学習活動や表現方法などに幅をもたせるようにするとは、表現や鑑賞を幅広く捉え、児童が経験したことを基に、自分に適した表現方法や材料、用具などを選ぶことができるようにすることを示している。</p> <p>指導に当たっては、……(略)……</p>
--

また、同様の内容は、これまでの学習指導要領にも記載されている。

表7 小学校学習指導要領(平成元年告示)解説 図画工作編  
2 各学年にわたる内容の取扱いと指導上の留意点 から

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 個々の児童が特性を生かした表現活動ができるようにするため、題材等に幅をもたせるとともに、児童が自分に適した表現方法などを選ぶことができるようにすること。

この項目は、児童一人一人が、自分の特性を生かし、自らつくりだす喜びを味わうようにするとともに自らの判断や選択によって表現できるように……(略)……

「題材に幅をもたせる」は、表現や鑑賞を幅広くとらえ、児童が意欲をもてる題材であるとともに、自分に適した表現方法や材料、用具などを自ら選ぶことができるような題材にすることである。

指導に当たっては、……(略)……

さらに、昭和26年(1951年)実施の学習指導要領に基づく、小学校図画工作の指導書においても次のような記載がある。

表8 小学校図画工作指導書(昭和35年) 文部省  
第3章 指導計画と学習指導法 から

3. 個別指導における留意点

……(略)……

(1) 個々の児童の造形能力を知ること ……(略)…… 児童によっては、大胆な表現をするもの、細かい表現をするもの、表現の早いもの、おそいものなどいろいろである。……(略)……

(2) 個々の児童の発想をたいせつにすること ……(略)……

(3) 表現の特色を生かして育てること 同じものをかいても見方が異なるので、表現する作品が異なるのはいうまでもないが、表現の形式も違っているのは当然である。たとえば、パス類でぐんぐん塗るのが得意の児童もいれば、不透明水彩絵の具でかくのが得意の児童もいれば、ものを面でとらえるのが得意の児童もいる。それを生かしてやるのがたいせつである。……(略)……

(4) 造形品の見方を個性的に育てること ……(略)……

現行の学習時要領でも、さらには30年前の学習指導要領においても「表現方法や材料、用具などを自ら選ぶことができるような題材にすること」が述べられており、さらに30年をさかのぼっても、個に応じた指導の大切さが述べられている。このことは、中学校美術科でも同様であることから、まさに戦後教育における図画工作科・美術科がもっている教科の本質的な特性であろうと思う。

そうした中で、現代美術社の教科書は文章が多く、読んで考えさせる教科書として注目されたが、写実的表現に偏っていたためか、教育現場には受け入れられず、採択率は数%と極めて低かった。

1980年(昭和55年)から参入し、1996年(平成4年)を最後に撤退する。



図20 平成4年度用 現代美術社 子どもの美術6「自画像をかく」から

#### (4) 教材の準備について

学習指導要領で示された「学習活動や表現に幅をもたせるようにする(指導要領)」「自分に適した表現方法や材料、用具などを選ぶことができるようにする(解説)」ためには、教師が様々な表現方法があること知り、そのための材料、用具を準備することが必要である。

**絵を描くときに考えること**

- ① 何を描こうか? 花、玉藻公園
- ② 何を使って、何に描こうか?  
鉛筆、クレヨンやパス、水彩絵の具、墨汁、マジック などで  
画用紙、色画用紙、段ボール紙に
- ③ どんな描き方で描こうか?   
線で形を描いて、絵の具やクレパスで塗る。  
線で描かないで、いきなり絵の具やクレパスで塗る。など



図 21 夏休み小学生絵画教室 (2025. 8. 5) で提示

私は、毎年高松ユネスコクラブが主催する「夏休み小学生絵画教室」で講師を務めているが、初日のオリエンテーションで、子どもたちに、作品鑑賞を通して様々な表現方法(描き方)があることを知らせ、選択に応じて材料や用具を準備している。

#### (5) 教師にとって楽な指導、子どもにとって苦痛な方法

教員にとってこれといって準備を要しない楽な絵画指導は、白い画用紙に鉛筆で下描きをさせ、水彩絵の具で彩色させる方法である。また逆に、この方法は、児童にとって特に絵を描くことに自信のない児童にとっては最も苦痛な方法である。

鉛筆での描写は、露骨に描写力が浮き彫りとなる。よく観察して、正確に形をとって陰を付けて立体感を出すともなれば、苦痛は増すばかりである。

それが、例えば、割りばしペンで描くといった技法が介在すると、鉛筆で描くのとは異なり、技法そのものからくる面白さが絵の魅力となってくる。細い線、太い線、ひん曲がったり、墨汁が垂れたりして、線の表情が大きな魅力となる。2色のクレパスを重ねて線描すると、形が上手く描けているかどうかよりも、2色の線の重なりが面白く、絵の魅力となる。鉛筆で描く方法は飾りつけなしの厳しい方法である。

このように絵画指導において、白画用紙を鉛筆で下描きし、水彩絵の具で塗る方法は、一律に皆に強いるのは避け、選択肢の一つとすべきである。

さらに、自画像となれば、先に挙げた本学学生のアンケート調査にあるように恥ずかしさなどから嫌いな教材No.1である。ネットで自画像を検索すると、授業で描かされた辛い思い出がつづられている文章に次から次へと出くわす。それだけに、より表現方法や材料、用具などを自ら選ぶことができるようにしなければならない。



クレパスで線描きし、水彩絵の具で彩色した。

小学校では圧倒的に多く行われている技法。

川島小 2年



奉書紙(版画用の和紙)をくしゃくしゃに丸めたあと、広げて伸ばして、ボール紙に少し水で薄めた木工用ボンドで貼り付ける。しわしわの奉書紙が味わいのあるテクスチュアとなる。その上から、割りばしペンに墨汁をつけて描いていった。

国分寺北部小 3年

図 22 香川県小・中学校総合文化祭展覧会から

#### 7 おわりに

初めて橋谷先生の学級掲示を見てから8年目となり、先生が大学近くの中学校に勤務していることを知り、電話で今も同じように教室掲示をしていると聞き、教室を訪ねて写真を撮らせてもらった。変わらず、白と黒のシンプルな生徒たちの自画像と口を大きく開け

た中に目標が書き込まれた自画像が掲示されてあった。

橋谷先生の自画像は、教室掲示が第一の目的であるが、自己を見つめるという自画像本来の意義に加え、生徒一人ひとりを掲示という形で学級に存在させるという学級経営の意義を備えている。さらには、誰もが抵抗なく制作できる”切り貼りする”方法をとっていることは大いに共感できる。



図 23 高松市立木太中学校 学級掲示 (2025.10.14)

現行の小学校の図画工作科の教科書では、「自画像を描く」という教材は、取り扱われていない。その理由は分からないが、2 発行者ともに「小学生が自画像を描くこと」に大きな価値があるとは考えていないのだろう。

私は、教室掲示によってクラス全員の存在を確かめる意味でも、色画用紙による「自画像づくり」を推奨するものである。学生たちには教員となった際、ぜひとも自画像づくりに取り組むことを期待している。



図 24 香川大学教育学部附属高松小学校 4年 学級掲示 (2018)

図 25 佐々木啓祐  
「20歳の自画像」  
530×455 (1976)



#### [参考文献]

- 佐々木啓祐 (2022年)「研究授業『小学校図画工作科の現状と課題』についての考察」  
高松大学 研究紀要第78号
- 佐々木啓祐 (2023年)「保育士・幼稚園・小学校教員養成課程における造形表現・  
図画工作科の授業の在り方」 高松大学 研究紀要第80号
- 佐々木啓祐 (2024年)「小学校3年生の高松大学での図画工作体験授業の報告及び考察」  
高松大学 研究紀要第82号
- 文部省 (1960年)「小学校 図画工作 指導書 (昭和35年告示)」
- 文部省 (1999年)「小学校学習指導要領 (平成11年告示) 解説 図画工作編」
- 文部科学省 (2018年)「小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 図画工作編」